

## 幼児専用車の安全対策について

### ～幼児専用車ワーキンググループにおける検討状況の報告～

平成 24 年度第 1 回車両安全対策検討会において、以下のとおり、幼児専用車の安全対策の大枠の方向性を示すとともに、検討会直下にワーキンググループを設置して、安全性向上策の整理・評価及び材質・寸法要件等を含む具体的な幼児用座席の設計のあり方を検討することとなった。ワーキンググループで検討した結果については、検討会に報告、今年度中にその内容を議論した上で、本検討会が示す幼児専用車の安全対策とすることです承された。

平成 24 年 7 月 24 日に第 1 回、平成 24 年 10 月 9 日に第 2 回の幼児専用車ワーキンググループを開催して議論を行っているところである。

(ワーキンググループのメンバーについては別紙)

#### 【安全対策の方向性】

幼児専用車に係る交通事故分析結果（前方座席が加害部位となって、頭部、顔部、頸部を受傷（軽傷）することが多い）、座席ベルト装備に係る技術的な課題（体格差の大きい幼児への一定の座席ベルト設定の困難性、緊急時の脱出性を含むベルトの脱着性等）や使用上の課題、短時間に一定のエリアで運行される幼児専用車の使用実態等を勘案して、以下の主な対策を組み合わせた安全性向上策を整理・評価し、一定の方向性を示すことを目指す。

##### 《主な対策項目》

- ・ シートベルトの装備（無し、2点式、3点式）
- ・ シートバックの高さ（ハイバック、ノーマル）
- ・ シートバックの緩衝材（あり、無し）
- ・ 座席間隔（現状、拡大、縮小）、座席レイアウト

##### 《主な評価項目》

- ・ 衝突時の頭部等の保護性能
- ・ 座席からの転落や車外放出の可能性、緊急脱出性
- ・ ベルトの装着性、ベルト装着の確認容易性
- ・ 幼児の観察性
- ・ 乗車定員の減少、車体価格への影響 等

#### (今後のスケジュール)

今回の検討会での議論を参考に、引き続き、幼児専用車の安全性向上策の整理・評価及び材質・寸法要件等を含む具体的な幼児用座席の設計のあり方について、同ワーキンググループで検討を進めることとしたい。